

# 一期一会の本当の意味

クジメンコ・ボリス（ロシア）

「一期一会」という言葉を聞いたことのない日本人は絶対いないと思います。日本語を勉強している私のようなロシア人の学生でさえ一期一会という言葉を知っています。しかし、日本に関係のないロシア人なら、知ることはないでしょう。なぜなら、ロシア語には、こんな表現や諺が存在しないからです。

日本人に「一期一会」の意味について訪ねてみると、「今一緒にいる人との瞬間を大事にして、その人との出会いを大切にすること」と答える人が多いでしょう。しかし、普通の子供には、短期間しか一緒にいられない、明日からはもう二度と会えないかも知れないという出会いはどれぐらいあるのでしょうか。

私は小さなロシアの町に生まれて、大学に入学するまでは自分の家の5キロぐらいの周りの世界しか知りませんでした。親友のような絆のある人とは、毎日家の回りで遊んで、明日またその人と会うことは、当たり前のようにでした。大人になると子供の世界が、時々羨ましく思えてしまいますよね。なぜなら悩みは学校の宿題で、実際に見たことのない、本でしか知らない世界はまだ広いです。

大学に入ってから他都市で一人暮らしでしたが、そこでできた友達とも毎日一緒に授業を受け、子供の時と同様に「どうせ明日また会うから」と思っていました。ロシアは日本より広いですが、卒業後に他の町に引っ越しても、また会いたくなったら、他の町に行けなくはないからです。

大学生の時に私は初めて「一期一会」という言葉に出会いました。「千利休の弟子である山上宗二が言った言葉が由来していて、茶会におけるお客さんたちと二度と同じ揃えで同じ場所で会うことがないかもしれないからこそ、その場所にいる人に出会ったことと、その瞬間を大事にしなければならぬということの意味している。」と私の日本語の先生が教えてくれました。しかし、諺の意味を知ったところで、諺に含まれている深い意味を理解することができませんでした。自分がそれを何かの出来事で経験しないと、言葉は知恵にならず言葉のままで終わってしまうのです。ロシア語には次のような諺があります。「愚かな者は自分の失敗で学ぶ、賢い者は他人の失敗で学ぶ」という諺なのですが、そう上手くはなかなか行きませんよね。あの時の私は「面白くて賢そうな諺だな！」としか考えていませんでした。

しかし、日本での留学の時、私は初めて「一期一会」を体験しました。三年前に私は文部科学省の日研生という一年プログラムで日本に参りました。そして、幸いなことに留学先は東京外国語大学でした。そこは日本の大学に入学をするつもりで来た様々な国の留学生が日本語力を鍛える所です。自分が日本に来たとしても、東京外国語大学では日本人だけの友達を作るというのは、あり得ない話です。友達としては日本人しか認めないという相当変な人でないと、、、おっと、失礼。つまり、当時の私には世界のあらゆる国から来た友達ができたとということです。

習慣も文化も言語も違う人とふれ合うことは、人に深い印象を与えます。もちろん、私にとって外国である日本に来た時に、自分が当たり前のように考えていたことは、他の国の人にとっては当たり前ではないということに気づきましたが、もし日本以外の国に行くことはなくても、その国の

人と友達付き合いをただけでも、その国の人の文化を感じることができます。なぜなら、文化はイベントや祭りだけではなく、人の考え方、確信、普段着だって違うからです。

そして、何よりも文化を代表するのは、人のしぐさ、顔と声です。人と話す時は、顔に現れる表現と目の動き、話している時に使う身振りと声のイントネーションによって私たちの脳が相手の様子についてとんでもない量の情報を得ます。いざ考えてみると、やり取りをしている時に、文字だけでは自分がどんな気持ちで書いているのか、伝わらないことが多いのはそのためです。なので自分の気持ちを相手に正確に伝えるために、絵文字やスタンプといった気持ちを表す画像やアニメーションが流行っています。つまり、直接に会うほうが相手を「感じる」ことができると思います。

私は毎日外国人の友達と一緒に勉強して、授業を受けて、楽しい時間もすごして異文化と密接にふれあいました。外国人の親友ができたことは夢にも思っていまらなかったのですが、現実になりました。しかし、どの留学にもとても悲しい時があります。そうです。それは留学が終わって帰国する時です。私が友達との時間をより大切に始めたのは、帰国する一ヶ月前でした。そのきっかけはあるスピーチ大会での出来事でした。

私はステージで多数のお客さんの前でスピーチをした直後、司会の人から「あなたの好きな四字熟語は何ですか？」と聞かれました。私の頭の中では「一期一会」しか思い浮かばなかったため、「一期一会」と答えました。そうしたら、ホールにいたお客さんから大拍手を浴びました。しかし、この出来事による私にとって大切なことは浴びた大拍手のことではありません。確かに、気持ちよかったです。より大切だったことは次のことです。質問への回答として「一期一会」を半分偶然に答えてしまった私は、それを口にした瞬間、大学の日本語の先生が教えてくれた「一期一会」の意味を思い出しました。そして、そのスピーチ大会に来てくれた日本人と参加者の友達などと一緒に過ごす時間は、絶対二度とないと思いました。一瞬怖くなって、できるだけ今の瞬間を五感で覚えつくそうと、脳が頑張っているのを感じました。ステージの空気の匂い、お客さんの声、今も鮮明にあの瞬間を覚えています。

それをきっかけに、スピーチ大会の後、一期一会について考え続けました。生まれて初めて「一期一会」という言葉の深い意味について悩み始めた自分は、必死に考え続けた結果、当時日本でできた友達との時間を大切にしなければならないということに気づきました。当時の友達との時間が過ごせることは、自分の人生では非常に特別なことであるということを理解したからです。そして、次の日に友達と夕ご飯を食べに行き、そこで皆に一期一会について考えてもらい、自分が思いついた視点について話してみました。次の視点から見ると、なぜ当時の友達との時間がそんなに特別だと私が思ったのか分かります。

第一、「一緒にいる場所」という視点で、3つの視点の中ではもっとも繰り返しやすいことです。私は子供の時、一期一会に似ているような考えもしなかった原因は、それです。一緒にいる場所はあまりにも普通で、いつでも手が届きやすいところだったので、特別さが足りなかったからです。しかし、東京は私の町から5千キロも離れている外国の首都で、自分がいつか行くとは想定もしていなかった場所です。自分がコンビニに行くことでさえ、まだ日本に来た事のない人にとっては、めったに聞くことのない世界一興味深くて面白い話になることができます。私にとっては普通である一方、他の人にとっては、不思議で感じたことのない、新しい気持ちが伝わります。しかし、私一人ではありません。外国人の友達にとっても日本は海外であり、また同じところで会うことは非常に難しく思われます。だからこそ、友達と日本で会ったということは、非常に特別な意味をもつと感じました。

第二、「異文化の揃え」という、より繰り返しにくい視点です。ロシアでは異文化に触れ合うことは考えられないことでした。しかし、日本に来たことでインドネシア人、スリランカ人などの親友もできました。そして、私たちのグループのような異文化の組み合わせ、つまり、こんな人揃えができる可能性が低いからこそ、私たちがお互いに出会ったことについて、うれしくて特別だと考えました。

第三は、最も難しい視点で「時間」です。つまり、私と私の友達、帰国してからのいったいどんな人になるのかという質問への答えなんかありません。人の未来はそう簡単に推測できるものではないからです。だからこそ、当時私たちが一緒にいて、お互いに気の合う人だと思っていたことは、非常に珍しく、「もしかして、今のようにもう3年後とかは笑えないかもしれないから、今、私たちが一緒にいる時間をもっと楽しむことを忘れてはいけないのではないか。」と私が皆に問いかけると、皆最初は悲しそうな顔をしているようでしたが、その後はより積極的になって、緊張感のある非常に楽しい時間を帰国するまで大事に過ごすことができました。

日本文化の一部である「一期一会」という諺を他の国の人にも教えなければならないと私は思います。なぜなら、この諺のおかげで私の人間関係に対する考え方が逆さまになったといいますか、自分を導くもう一つの心の欠かせない一部になったからです。もちろん、私の解釈は個人的な意見に過ぎません。それを聞いて、「全然ちゃうわ！」と思う人もいるに違いありません。しかし、「一期一会」には、必ず誰でも自分にとって大切な何かを見つけることができる言葉だと思います。そうすると、今、個人個人の社会になりつつある世界は、人と人との絆をより丈夫にすることができる世界になるのではないかと思います。そして、日本人の方にももう一度今の自分の人生における一期一会について考えて欲しいです。ただの言葉の意味だけでなく、あなたの心が求めている一期一会について考えてみてください。

ちなみに、私と私の外国人の友達は、また日本で集まって、新しい一期一会の瞬間を作るために頑張っています。思い切って頑張ることができるからこそ、なんだか、「一期一会」が生き甲斐になった気がします。

それが私にとっての一期一会の本当の意味でした。皆さん、あなたにとっては「一期一会」って何ですか？

ご清聴ありがとうございました。